

たまごの

第151号

令和5年10月1日発行

発行所／一般社団法人
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
TEL 095-824-5494

発行人／藤木 卓
印刷／株式会社 岩永印刷所

私も新人です!

金崎 良一 (S59年卒・長与町教育長)

令和4年10月1日より長与町教育長の職を拝命しています。教諭、教頭、校長、行政職に着任する際、幾度も新人という立場を経験してきました。今回は、「新人 教育長」です。これまで自分自身では予想もしていなかった職です。

今年7月他界された長崎大学名誉教授 糸山景大先生には、学生時代、新設された大学院時代に、ゼミの先生として様々なことを教えていただきました。職業人としての生き方の基礎をつくっていただいたと思っています。大学を卒業する折、糸山先生から石原慎太郎氏の著書『青年の樹』の一節にある「青年は自由であれ」という言葉をいただきました。これから新人教師として赴任する私に「目的達成のためには、既成概念には縛られることなく、自由な発想で物事にあたるように」という教えだったと思います。仕事で悩んだ時、何度もこの言葉を思い返し、勇気づけられました。どの職も同じですが、教育長の職も課題は山積みです。しかし、「子どもたちのため、住民の皆様のため」を理念として、「直前の課題」、「これからの課題」に全力で正面から、自由な発想で取り組んでいきたいと思っています。これが、新人の私の決意です。

一例を紹介します。現在取り組んでいるのは、部活動地域移行です。国は令和5年度から7年度を「改革推進期間」と位置づけ、まずは、この期間に休日に中学校で実施されている部活動を地域の活動にできるところから移行することとしています。長与町教育委員会では、令和5年4月から長与町内にある三つの中学校の運動部活動をすべて地域に移行しま

した。有難いことに、スポーツ庁室伏長官から「全国に誇れるモデルケース」として紹介され、全国からの視察も相次いでいます。この事業の着手にあたり、掲げた目的は一つ、「子どもたちのため」です。人口約4万人の長与町でも、子どもたちの数は、少しずつ減っています。学校単独でチームを組むことができない競技も出てきました。少子化のため、「やりたい」スポーツができない状況を少しでも改善できるように取り組んでいます。課題は、類型化すると四つです。地域スポーツ活動の「受け皿の基盤強化」、指導者等の「人材確保」、活動に必要な「財源確保」、関係する方々の「意識改革」です。どれも難しい課題ですが、多くの皆様方のご協力、ご支援をいただきながら、さまざまな視点から取り組みを進めています。

他にも「教職員の働き方改革」「GIGAスクール構想」「令和の日本型教育の実現」など、「直前の課題」がたくさんあります。さらには、少子高齢化、人生100年時代に関連する「これからの課題」にも、目的達成にむけて、多くの皆様とのチームワークにより工夫を重ね、ひるむことなく、しかし丁寧に、解決、改善していく考えです。

還暦は過ぎましたが、これからしばらくは、新人ですので、「青年は自由であれ」の言葉に、時折、勇気をいただきながら職務にあたっていきたいと思っています。



目次 <新人特集>

P01 【私も新人です!】 金崎 良一

P02 【新任教員になって!】 小清水 万貴, 今田 龍哉

P02 【新任教頭になって!】 吉田 公悦, 北村 由紀

P03 【新任校長になって!】 米村 郁子, 阿比留 喜盛

P03 【OB/OGの声】 道越 貴代美, 坂元 正博

P04 【教育学部へ入学して!】

南波 柚衣, 網田 佳祐, 吉野 芽衣

P04 【教採セミナーを受講して!】

佐藤 あたる, 三浦 竜之介, 土谷 愛

P05 【母校だより】 藤本 登

新人特集

～長崎県の教員になって～

東京出身の私が長崎県の高校家庭科教員になりました。「なぜ長崎に？」とよく聞かれますが、長崎大学に入学したことが大きなきっかけでした。大学4年間でたくさんの友達と素敵な先生方に出会い、特別支援や家庭科の授業で学んだことを子どもたちに伝えたいと考えるようになりました。そして、長崎で一人暮らしを始めて、住みやすさを実感したことや友達と訪れた五島や小値賀島に魅了されたことも、長崎に決めた理由の一つです。4年生のときは、教員採用試験対策の勉強や玉園主催の教採セミナーでの面接練習、二次試験に向けた実技練習など大変でしたが、手厚いサポートに支えられ、合格することができました。

小清水 万貴 (R5年卒・高校)



4月から新任教員として教員生活がスタートしました。何もかもが初めてのことで悩んだり、落ち込むこともありますが、生徒と一緒に家庭科の授業をつくることは、発見の連続で楽しいです。ペアの先生や周りの先生、同期の先生に助けをもらいながら、日々を過ごしています。生徒たちの笑顔を見ることのできる、この仕事の魅力を実感し、教員としてのやりがいを感じています。生徒と一緒に多くのことを学び、高校家庭科教員として一人前になれるよう、成長していきたいと思っています。

～教員になって～

教員となって、約5か月が経ちました。憧れていた職に就き、子どもたちと毎日楽しく過ごしています。1学期は、初めてのことでばかりで、目まぐるしく過ぎていく日々でした。「きついな。」と思うことも正直ありましたが、毎日教室に行くとかわいい子どもたちの笑顔があり、何度もその笑顔に救われてきました。

教員として働き始めて今思うことは、大変なことも多い仕事ではありますが、そのやりがいは何にも代えがたいものであるということです。子どもたちが日々

今田 龍哉 (R5年卒・小学校)



壁にぶつかりながらも少しずつ成長していく様子を見守ることができること。子どもの「できた!」「わかった!」を一緒になって心から喜ぶことができること。子どもたちと毎日向き合っていく中で、多くの喜びを感じることができるのは教員という仕事にしかない魅力だと思います。これからも、子どもたちと共に成長することを楽しみながら、明るく元気に頑張っていきます。

～教頭になって～

『青春』するならば中学校教師だ。」教育実習でそう思わせてくれた私の教職への思いの原点である長崎大学教育学部附属中学校での勤務を終え、令和5年春、西海市立大瀬戸中学校に教頭として赴任した。

平成22年に附属中に赴任した時、私は「私」を一度リセットした。教育とは、学ぶとは、そして、生徒がよりよく生きるために私はどうあるべきか。こう自らに問いながら附属中での13年間、私は更に学び、多くの経験を積んだ。そして、教師として、一人の人間として、こう在りたい、こう生きていきたいという確固たる思いを持つ「私」を形作ることができたと思う。

北村 由紀 (H4年卒・中学校)



青い海と空、緑の山々、自然豊かなここ大瀬戸中学校は、4学級全校生徒103名の学校である。職員は生徒一人一人をよく理解し、健やかな成長を願って日々尽力している。教頭の仕事は多忙であるが、新鮮でとても充実している。立場や視点は変わったが、「私」の考えや判断、言動等が日々の仕事に生きていると感じる。本校のスローガンは「オール大瀬戸で自分の目標に向かって挑戦する生徒」。子どもも大人も心をついにし、生きがいを持って幸せに生きていこうと思える学校となるよう精一杯努力したい。

～教頭としての自立を目指して～

的山大島-「あづちおおしま」は、平戸港からフェリーで40分の自然豊かな島です。今年度、私は、新補教頭として平戸市立大島小学校に着任しました。児童数27人、職員数14名の大島小には、のびのびとして皆と仲良く遊ぶ子どもたちや個性を発揮して、職務を遂行する先生方、子どもたちを優しく見守り育てる保護者や地域の皆様があります。そんな大島小での教頭としての職務は、失敗の連続でした。文書処理が滞ったり、PTA活動の運営が不十分だったり…。試行錯誤したものの、情けない思いをしました。その原因を見つめ直したとき、私には「教頭のツボ」が無いことに気が付きました。私が昨年度までお世話になっていた附属

吉田 公悦 (H14年卒・小学校)



小で研究していた生活科の手立てが、「せいかつのツボ」です。「せいかつのツボ」とは、対象によりよく関わるための視点やコツです。そのような視点やコツが、今の私には無い。だからこそ、気付きを言語化したり、確かめたりすることが大切なのだと考えるようになりました。

まだまだ「教頭のツボ」に入っている視点やコツはわずかです。これからも、的山大島で、様々な「人・もの・こと」と関わり、教頭としての自立を目指していきます。

～ 校長になって～

前任校の離任式で「校長先生になります！」と挨拶した私を子どもたちは大きな拍手で祝ってくれました。新任校長として赴任する長崎市立朝日小学校は20数年前に勤務していた思い出深い学校でもあり、校長としての初出勤は、教頭職をやり遂げた達成感と大好きな学校に赴任できた喜びにあふれていました。

しかし、当然ながら校長職はそう甘くはありません。次々に上がってくる起案文書や相談してくる職員を前に、常に判断をせねばならず、迷い、悩み、悔やむことの連続。教頭時代に膨らんだ自尊心はしばむ一方。

米村 郁子 (H2年卒・小学校)



とは言え、運動会や市教委学校訪問、教育週間などの大きな行事を終えるたびに、「役が人を育てる」の言葉どおり、私も少しは校長らしくなってきたような(?)気がしています。今は、小規模校である本校のよさを生かしながら、豊かな体験活動を通して、子どもたちの笑顔あふれる学校にするべく邁進しております。迷い、悩み、悔やむことはおそらく続くのですが、それを校長職の醍醐味と考え、大いに味わっていきたくと思っています。

～ 校長になって～

4月に対馬市立豆酩中学校の校長の辞令をいただくから4か月が経ち、「何とか無事に1学期を終えることができた」と、胸をなで下ろしていた矢先の本執筆依頼に「さあ、もう一仕事」と気持ちを奮い立たせながら筆を走らせています。学生時代から無鉄砲であった私が、今こうして校長として一つの学校を任されていることが自分自身でも不思議です。これまでの学生生活・教職人生を振り返ってみると、実にたくさんの先生方や親友たちとの出会いがあり、多くの刺激を受けたり、指導していただいたりしたことで自分自身の教育観が培われました。豆酩中学校では、「自立」をキーワードに掲げて学校経営を進めています。

阿比留 喜盛 (H8年卒・中学校)



校長になって感じることは、「私は先生方に校長にしてもらっている」ということです。本校の先生方は、私が掲げた学校経営方針を具現化するためにはどうすべきかを真剣に考え、教育活動を計画したり、事あるごとに生徒に「自立」について話をしたりしてくださっています。改めて、人とのつながりと信頼関係の大切さをかみしめる毎日です。まだまだ、私の校長人生は始まったばかりです。先生方や保護者に信頼され、生徒の自立を後押しできる学校経営のできる校長を目指して精進していく覚悟です。

OB/OGの声

道越 貴代美 (S53年卒・小学校)

大学を卒業して早46年、現在、諫早市の選挙管理委員を仰せつかって3年目になりました。毎月の定例会議に参加し、公正な選挙の管理執行を行うのが主な役目ですが、学校や子どもたちとの関わりがもてることも嬉しく思います。

その一つは、市の選挙管理委員会事務局の方々に同行して参加する小学校6年生の社会科の出前授業です。選挙に関する講話のあと、諫早市長候補の子どもたちが選挙演説をするのですが、小学生なりに市の人口流出などの課題を踏まえた公約を考えていて、感心させられます。「幼児から高齢者までゆったり過ごせ

る自然公園を作る」「空港と諫早駅をモノレールでつなぐ」「人工スキー場を作って観光客を増やす」などの公約がありました。その後、実際の選挙で使用される記載台や投票箱、投票用紙を用いて選挙をします。

真剣に投票し、開票を見守る表情、委員からの講評を聞きながら聞く姿勢に、将来の有権者への啓発活動の手応えを感じるとともに、各校の先生方の細やかな普段のご指導ぶりが窺え、毎回胸を熱くしながら学校を後にしています。



坂元 正博 (S53年卒・小学校)

大学を卒業後、小学校の30年間、県教育センター・教育事務所・市教委・県教育庁義務教育課の8年間、合計38年間を、周りの方々に支えられながら、何とか務め終えることができました。退職後は、地域をはじめ、様々な部署から様々な依頼があり、現在も12~13のかかわりをもっています。特に、市の教育委員、県教育会の評議員、互助組合退職互助部の運営委員及び支部長、地域子ども教室の協働活動支援員等では、学校並びに教職員の皆様とも、幾分つながりをもっています。ただ、私は、退職したら教育とは異なる分野に

も挑戦したいという強い思いがあり、現在の職業は、WEBコンサルティング会社の非常勤社員です。パソコンとインターネット環境に浸る毎日ですが、教職経験を生かせる場面もあり、充実しています。失敗を恐れず日々挑戦、何事にも全力投球、常にプラス思考&未来志向で生きれば、人生何とかなります。『人事を尽くして天命を待つ』誠実な姿勢が、信頼を生みます。玉園同窓会のますますのご発展と現職の皆様方の更なるご活躍をご祈念申し上げます。



学生の声

～ 教育学部に入学して～

私は小学校や中学校での学習や生活、経験を通して、学校が楽しいと思うようになり、私自身が感じた楽しさを子どもたちとの交流を通して伝えていきたいと思い、本学部に進学しました。現在同じ夢を持った人たちとともに、専門的な知識を学んでいることに嬉しさを感じます。大学では今までとは違う視点や、新しい考え方を身につけることができ、特に専攻している理

南波 柚衣 (小学校)



科では、化学、物理、生物、地学での知識を深めていく中で、理科の楽しさを改めて実感しています。学部での学習や実習を通して、副免の理科を始めとした専門的知識を身につけ、子どもたちとの関り方に関する学びを深め、将来に向けての力をつけていきたいです。

～ 教育学部に入学して～

私が長崎大学教育学部に入学して早いもので5か月が過ぎました。私が教育学部に入学して最初に感じたことは、どの学生もコミュニケーション能力に溢れ、教員を目指す志がとても高いことです。私は山口県から友人と二人で進学してきたこともあり、最初は周りが長崎出身の学生ばかりでなかなか輪の中に入っていきませんでした。しかし授業内での意見交換や話し合

網田 佳祐 (中学校)



いを通して、積極的にコミュニケーションをとったことで今では気兼ねなく同専攻の人たちと話せるようになりました。最後に、最初に述べた通り教育学部生は教員を目指す志がとても高いので、私もそれに負けない志を持って、大学での4年間を精一杯頑張りたいと思います。

～ 教育学部に入学して～

4月より長崎大学教育学部に入学してから半年が過ぎ、私は県外出身者のため初めての一人暮らし、大学生活、アルバイト等初めての物事に刺激を受けながらも、大学に合格した時の喜びや努力を忘れることなく、私を支えてくれる周囲の人々に感謝しながら生活しています。

入学する動機となった長崎大学の取り組みや目指す

吉野 芽衣 (幼児教育)



教師像を常に念頭に置き、大学を卒業した時に教師として生かせる観察力や集中力を養い、教育学部ならではの実習や自分のしたいことを叶えられるサークル活動を通して、恥じない大学生活を送っていきたくたいです。好機を待つのではなく、自ら行動を起こして大学生にしかできない経験や機会に触れていきます。

～ 教採セミナーを受講して～

玉園同窓会の対策に参加する前は2次試験において不安しかなかったのですが、毎日多くの先生方が一生懸命向き合ってください、短期間で自分の言葉に自信を持てるようになりました。また、面接だけでなく子どもたちとの関わり、授業づくり、保護者・地域とのかかわりなど教師になるうえでの学びをこの1か月でとても積み重ねることができました。2次試験はもち

佐藤 あたる (小学校)



ろん、教師になっても生かすことのできることをばかりで本当に参加してよかったです。私も玉園の先生方のように子どもたちのために学び続け、子どもたちにしっかりと向き合う、あたたかい先生になりたいと思います。

～ 教採セミナーを受講して～

先生方のお考えを聞いたことによって、教職に対する考え方を広げることができました。それによって、答える内容が深まっていった感覚があります。また、先生方の情熱に触れて自分も教員になりたいという思いが強くなっていった感覚も残っています。そして、顔と名前を覚えて下さっている先生からの「毎日頑張るとるな」という声や、複数回指導をしてくださっ

三浦 竜之介 (小学校)



た先生からの「よくなってきとる」という声など、先生方の温かく肯定的な関わりに勇気づけられる毎日でした。初めは計り知れないほど大きな緊張や不安がありましたが、先生方のご指導によって、程よい緊張感の中で、自信をもって面接に臨めそうです。ありがとうございました。

～ 教採セミナーを受講して～

最初は面接に対して不安を抱くこともありましたが、多くの先生方に指導をいただけたことで少しずつ自分の軸が見えてきて、自信にも繋がりました。また、これまではコロナ禍もあり、なかなか関わることができなかった他専攻の学生と一緒に練習をすることは、

土谷 愛 (中学校)



自分の支えになっていたと思います。玉園同窓会で学んだことを生かしながら、本番では自分の考えを伝えられるように頑張ります。約1か月間ありがとうございました。

母校だより

教育学部長 藤本 登



8月18日の某新聞のコラム欄「石だたみ」に朝の連続テレビ小説に出てくる博士が命名した「シーボルトノキ」に関する記事を読んだ学長が、「現在のシーボルト邸宅跡にある樹木は、教育学部の中庭から移植したものだ」と書かれているが、そのいきさつを知りたいと。生き物について無知な私は、心当たりのある先生方に打診したところ、中西弘樹名誉教授や井手弘人准教授から女子師範学校で教鞭をとられ、本学部の生物学教室で教授をされた外山三郎先生が、大村経由で本学部の植物園に持ち込まれたとのこと。その後、その樹木のDNAを絶やさないために、陣野信孝先生が挿し木で増やし、中西先生がそれを引き継いで自宅で増やされたそう。結果として、教育学部やシーボルト邸宅跡にそれらの木が移植され現存しているとのこと。先人の努力と、その歴史を語り継ごうとされている方々に脱帽であり、詳しくは150周年記念誌で紹介したいと思っている。

さて、大学は、新型コロナウイルスが5月8日に感染症法の「5類感染症」に変更されて以降、ほぼコロナ禍前の姿に戻ってきたが、教育現場からコロナ禍を顧みると、オンライン教育環境の進歩がある。例えば、先日の台風6号、迷走台風で卒業の皆様やそのご家族に被害がないことを願うところであるが、鹿児島県霧島市の学会を見事に直撃し、オンライン開催を余儀なくされた。この際に大きな力になったのは、アルバイトの学部3年生や現地の教員である。教員はコロナ禍で用いられた家庭用Wi-Fiルーターを活用して、会場のネット環境の安定化を図り、学生は各会場のオンライン運営を大学から支援した。一方でオンライン参加に切り替えた参加者は、発表のビデオ動画の事前提出などに短時間で対応した。僅か3日間の間でこれだけの対応ができた理由は、コロナ禍での経験と学びである。社会的な出来事が大きいほど教育に与える影響は大きく、「令和の日本型学校教育」への移行もその一つと言えよう。

現在の学習指導要領は、ICT技術が急速に発展し、社会が目まぐるしく変転する予測困難な時代を生き抜くために必要な資質・能力として、「基礎的な知識・技能」「知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を示し、その育成を学校が核となりながら地域全体で行うこととしている。中央教育審議会も令和4年12月19日の答申で、教師の養成・採用・研修の在り方を問うている。本学部は7月21日に文

部科学省からこの答申への対応状況に関するヒアリングを受けた。ポイントは、①教員就職率の向上策、②教職の高度化への取組み、③令和の日本型学校教育に対する取組み、④組織提携の見直しである。以下に現状を紹介しよう。

- ①教員就職率の高さは、大量採用時代ということもあるが、教職理解や公立や附属学校での実習による多様な実習機会の確保、採用試験対策への取組み等、学生のみならず多くの方々の努力の賜である。また、平成28年度入試から導入した小学校教育コースの離島教育推薦枠(5名)の教員就職率は88.2%と高く改革の成果と言える。また、平成30年度に教職大学院に設けた管理職養成コースは、その存在のためか大学院の教員就職率を100%に改善する等、地域全体の教育界にプラスに働いていると言える。今後は、国が求める公立学校での実習も含め、地域と一体となった教員養成をさらに進めたい。
- ②教職大学院では、令和元年度から県教育センターと連携して、センターの短期研修講座と大学院の講義の相互利用制度を始めており、現在教職大学院の5科目の中から27講座が開設されている。また、大学院で行っている実務家と研究者教員のチームティーチングによる授業も学部展開を始めた。
- ③協働的な学びやICT活用について、附属学校が先導的に行っており、学部・大学院への還元も含め、教育委員会・附属学校・学部(大学院)・学校の連携による教育研究の推進を図っている。
- ④10年後の年少人口の減少や教員需要の変化を見据え、令和7年度に導入される基幹教員制度や他の制度の活用を含め、現状教育状況の分析を行いつつ新たな教育体制等の検討を進めている。

今年度は保健体育専攻に田端真弓助教が、社会専攻に久保田さゆり助教が着任された。お二人の今後の活躍は無論のこと、学部としては、内外の要望を受け止めつつ、新たな力と共に教育学部の刷新・創造を進めたい。現在、長崎県の教員採用選考試験の小学校教諭の募集枠は260名と多いが、今後その規模は縮小する。長崎県が求める教員を養成するためにも、教員になる「夢・憧れ・志」を持った学生を獲得することが大切であり、同窓生をはじめとする家庭、学校、地域社会の協力が不可欠であり、今後、益々の支援をお願いしたい。

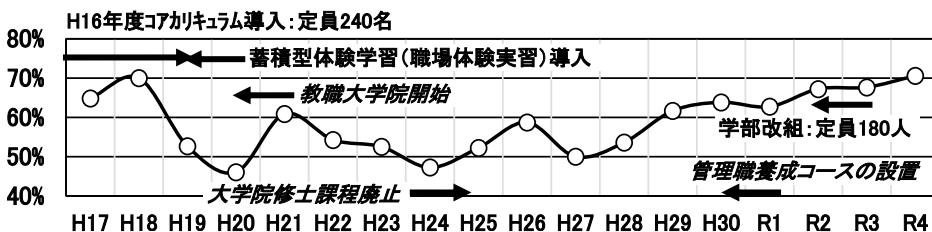


図. 教育学部の教員就職率の変遷と学部・大学院の組織改編

注) R2年度から中学校校音・美・技・家の募集停止

令和5年度 総会報告

日時：令和5年6月25日(日) 13時30分～

場所：桜町小学校内地域・学校交流センター

全ての議案について、全会一致で承認された。
なお、会計報告及び予算案は、次頁に掲載。

第1号議案 令和4年度事業報告及び会計報告

1. 会員の確認・報告について

- (1) 教育学部入学生に入会案内状配布(180部)
入会者25名
- (2) 現職退職者117名へ終身会員入会案内発送
入会者31名

2. 総会・理事会の開催について

- 総会：7月10日(日) 教育会館3F大会議室
- 理事会：6月14日(火) 教育会館3F大会議室
7月14日(木) 教育会館3F大会議室
9月10日(土) 教育会館3F大会議室
12月10日(土) 教育会館3F大会議室
3月11日(土) 教育会館3F大会議室

3. 会報の発行(149号, 150号)について

- 149号：令和4年10月1日発行
・特別企画 コミュニティースクールほか
- 150号：令和5年3月1日発行
・特集「母校の昔と今」ほか
※カラー横書き

4. 教育学部との連携事業について

- 原爆慰霊祭
- 退職教員花束贈呈
- 玉園賞(優秀学生表彰)授与

5. 公益事業の充実について

- 学校図書購入助成事業(2校)
- 青少年育成事業(該当なし)
- 修学・就業支援事業(対象：教育学部生)
・教採セミナー
・音楽・美術教育支援事業

6. 地区懇話会の実施について

- コロナ禍のため中止

7. 正会員向けサービスの向上について

8. 業務の改善と効率化について

9. 資産運用について

第2号議案 令和5年度事業計画(案)及び予算(案)について

1. 会員管理について

- 新規会員登録
- 会員情報の更新
- 新入生への入会案内
- 学校等代表者の委嘱に関する処理

2. 総会・理事会の開催について

- 総会：6月25日(日)
地域・学校交流センター：桜町小
- 理事会：6月10日(土)
地域・学校交流センター：桜町小
9月予定
12月予定
3月予定

3. 会報の発行(151号, 152号)について

- 151号：令和5年10月1日発行予定
- 152号：令和6年3月1日発行予定

4. 教育学部との連携事業について

- 教育学部原爆慰霊祭
- 退職教員花束贈呈
- 玉園賞(優秀学生表彰)授与

5. 公益事業について

- 学校図書購入助成事業(5校程度募集)
- 青少年育成事業(募集)
- 修学・就業支援事業(対象：教育学部生)
・教採セミナー
・音楽・美術教育支援事業

6. 玉園同窓会地区懇話会について

- 感染症対応等を鑑み対象や開催方法を検討

7. 大学院修了会員の加入について

- 長崎大学大学院教育学研究科修了生の加入のための定款改正等

第3号議案 役員改選について

今回の役員改選は、人事異動等に伴う一部の改選であり、以下に挙がっていない方々の任期は令和6年度総会までとなる。

1. 理事

- 山本圭介氏から刈山弘全氏へ(異動)
- 倉田伸氏新規就任(連携事業のため)

2. 参与

- 小西峯一氏ご逝去に伴いご退任
- 宮地計氏ご高齢につきご退任

第4号議案 定款の改正について

- 大学院修了会員加入のため、定款を改正
- 教育学部教員の呼び方を「教官」から「教員」へ変更

新役員の紹介

第3号議案で取り上げた役員改選により、次の方々が新しく理事に就任されました。任期は、令和6年度総会までとなります。

刈山弘全氏：附属中学校長、平成4年3月卒
倉田伸氏：学部准教授、平成13年3月卒

令和4年度 収支計算書

令和4年度 収支計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	400,000	125,000	275,000	入学者25名
2. 会費収入	2,300,000	2,050,000	250,000	
3. 雑収入	5	8	-3	
4. 繰入金収入	3,000,000	3,080,000	-80,000	
当期収入合計 (A)	5,700,005	5,255,008	444,997	
前期繰越収支差額	797,316	917,848	-120,532	
収入合計 (B)	6,497,321	6,172,856	324,465	
II. 支出の部				
1. 事業費	2,893,200	2,343,969	549,231	
2. 管理費	3,280,222	2,803,261	476,961	
3. 固定資産取得購入支出	273,899	426,011	-152,112	
4. 予備費	0	0	0	
5. 繰入金支出	50,000	960,000	-910,000	退職積立金特別会計から (3名分)
当期支出合計 (C)	6,497,321	6,533,241	-35,920	
当期収支差額 (A)-(C)	-797,316	-1,278,233	480,917	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	-360,385	360,385	

令和5年度 収支予算書 (案)

令和5年4月1日から令和6年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	400,000	400,000	0	入学者180名
2. 会費収入	2,125,000	2,300,000	-175,000	
3. 雑収入	5	5	0	
4. 繰入金収入	2,250,000	3,000,000	-750,000	
当期収入合計 (A)	4,775,005	5,700,005	-925,000	
前期繰越収支差額	1,092,316	797,316	295,000	
収入合計 (B)	5,867,321	6,497,321	-630,000	
II. 支出の部				
1. 事業費	2,943,200	2,893,200	50,000	
2. 管理費	2,874,121	3,280,222	-406,101	
3. 固定資産取得購入支出	0	273,899	-273,899	
4. 繰入金支出	50,000	50,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,867,321	6,497,321	-630,000	
当期収支差額(A)-(C)	-1,092,316	-797,316	-295,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

事務局だより

事業等の報告

< 玉園教師塾 >

◎教採セミナーについて

教採セミナーは、7月24日(月)の開講式に続き、以下のような要領で21日間のセミナーが開催されました。

- 期間：令和5年7月24日(月)～8月22日(火)
※土曜・日曜・祝日を除く
 - 場所：教育学部内の教室、学生会館、及び文教スカイホール(開講式)
 - 内容：教員採用試験二次試験対策支援として、模擬授業、個人面接、集団討論、小論文他
 - 参加者延べ数：1148名
- 開講式(7月24日)の内容
- ・会長挨拶
 - ・講師紹介
 - ・オリエンテーション
 - ・講話

◎キャリア支援セミナー(1年次対象)について

令和5年度4月よりスタートしましたキャリア支援セミナー(1年次対象)が、以下の要領で開催されました。



お知らせ

令和5年8月29日より、新しい事務局員として徳川敬文先生にお手伝い頂いております。どうぞ、よろしくお願いたします。

なお、事務局へのお問い合わせは、基本的に火曜日、水曜日、金曜日の10時～15時の間にお願いします。電子メールでの問い合わせにも対応していますので、ご利用ください。

- 日時：令和5年7月27日(木)
17時15分～18時50分



- 場所：教育学部100番教室
- 内容
 - ①挨拶
 - ②講話：的野郁美氏(mahana 代表)
子育て支援、教師に求められる資質等
 - ③ワーク：境宗徳氏、赤城理恵子氏(長崎大学キャリアセンター)
「夏休みをどのように過ごす？」

< 教育学部原爆慰霊祭 >

令和5年度の教育学部原爆慰霊祭は、台風接近により急遽関係者のみによる室内での開催になりました。今年度も、関係者の皆様には大変お世話になりました。

- 日時：令和5年8月9日(水) 10時58分～
- 場所：教育学部小会議室



玉園同窓会ホームページ
<https://tamazono.net/>

玉園同窓会
YouTubeチャンネル



事務局へのご連絡

- ・電子メール：inf@tamazono.net(常時)
 - ・電話：095-824-5494(以下の時間帯)
曜日：火曜日、水曜日、金曜日
時間：10時～15時
- ※不定期にお休みすることがあります。

題字：青嶋秋男